

令和6年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立東小路小学校
令和7年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【最重要目標 1】においては、

- SKIPの連絡掲示板を有効活用したり、隔週で職員ミーティングを実施したりするなど、喫緊の課題を共通理解し、課題に対して全教職員で取り組む体制づくりができた。今年度は、さらに連絡掲示板等、ICTを有効活用していく。
- スマートスクールの「心の天気」を毎日入力するようにしたり、「いいとこみつけ」に全教職員が気づいたことをその都度記入したりすることで、児童理解を深める。
- 体験活動を重視する方向は変わらず、全学年において発達段階を考慮しながら実施していく。
- 従来の行事や活動を新しい形に進化させながら、より地域に開かれた教育活動になるよう取り組みを進める。
- 人権教育の実践を通じて、自尊感情を高める取り組みを進めた。今年度は、「いじめについて考える日及びいのちについて考える日」を「いじめ及びいのちについて考える週間」として期間を拡張し、自他ともに大切にする意識を一層高められるようにする。
- 国際クラブに結集する児童の輪を広げるとともに、外国にルーツのある児童のアイデンティティを高められるように、外国人教育について計画的に実践していく。
- 令和 5 年度に初めて校下にある幼稚園と 1 年生との交流会を実施することができた。令和 6 年度は、学校園間で情報交換や園児・児童・生徒との交流を活発に行うなど、幼小連携や小中連携を推進し、児童がスムーズにステップアップできるようにする。

【最重要目標 2】においては、

- 研究主題の達成に向けて、算数科において指導法の工夫や研究を教員全体で進めることができた。引き続き子どもたちが「できた」「わかった」と実感でき、主体的・対話的で深い学びにつながるよう研究を推進していく。
- 令和 5 年度の全国体力・運動能力調査では、持久力に加えて柔軟性に課題があることが結果から明らかになった。令和 6 年度は、柔軟性を高める運動を継続的に取り入れる。
- 基本的な生活習慣のうち、特に「早起き」について取り組みを進めるとともに、取組内容に食育を新設し、給食について関心を高め、健やかな体づくりをめざす。

【最重要目標 3】においては、

- 学習動画コンテンツ配信モデル事業を活用し、家庭学習用としても一人一台学習者用端末を積極的に使用していく。
- 今年度も、教員のニーズに応じたメンター研修を計画的に実施していく。
- ゆとりの日には会議を設定せず、会議の開始時刻を繰り上げたり、ペーパーレス化に努めたりするなど、働き方改革をさらに推進していく。
- 図書委員会と学校司書を中心にして、読書週間等の取り組みを充実させることで、児童が本に親しむ機会を増加させる。
- 学校だよりや学校ホームページ、保護者メールによる発信を継続していく、とともに学校をつくる意識を高めていく。

学校行事や縦割り活動などを通じて、児童の発信力を高め、児童一人一人が生き生きと学校生活が送れるように取り組んでいく。さらなる教職員の働き方改革を推進し、教員の超過勤務時間の減少をめざしながら、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注げるよう運営に関する計画を策定し、実現をめざしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、小学校85%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より2ポイント増加させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を62.6%以上にする。
- ・規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合を令和7年度調査において、小学校89%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ・令和7年度末の教員の勤務時間の上限に関する基準1(月間45時間未満)を満たす教職員の割合を70%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、38冊以上にする。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より3ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・令和6年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。
- ・令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、96%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的に回答する割合を85%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的に回答する割合を97%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。(新設)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、40%以上にする。
- ・令和6年度の小学校学力経年調査の算数科における平均正答率7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・令和6年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的に回答する割合を85%以上にする。
- ・令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より1ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートで、「早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を82%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートで、「給食に关心をもって過ごせたか」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。(新設)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和6年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を65%以上にする。
- ・令和6年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を30冊以上にする
- ・令和6年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。
- ・令和6年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を94%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「全市共通目標」である3つの最重要目標の達成に向けて、教職員がひとつになって取り組みを進めることができた。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】においては、

- 必要な連絡事項は、校務支援PCの「連絡掲示板」で周知するとともに、隔週で放課後に職員ミーティングを実施することで児童理解が共有でき、子どもたちを見守る体制づくりができた。「いいとこみつけ」の活用については、まだ一部の活用に留まっている。
- 体験活動を重視する方向は変わらず、教科学習の補完として実施していく。
- 全教職員で年間行事や活動の見直しを行い、次年度から運動会の実施時期を11月にずらすなど、より実態に沿った形をめざしていく。
- 人権教育の実践を通じて、自尊感情を高める取り組みを始めた。次年度も引き続き「自尊感情を高める実践」を重ねていく。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】においては、

- 研究主題の達成に向けて、算数科において指導法の工夫や研究を教員全体で進めることができた。引き続き子どもたちが「できた」「わかった」と実感できるよう研究を推進していく。
- 全学年で課内実践を実施することができた。また、国際クラブで活動する児童数が大幅に増え、校内の発表会をはじめ、対外的な交流の場でも発表する機会があり、充実した内容となり、多文化共生教育を推進することができた。
- 「早起き」について児童に意識づけることができた。また、今年度は食育についても取り上げ、基本的な生活習慣の向上に努めることができた。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】においては、

- ICT機器の授業での活用はさらに進んでいる。持ち帰りの双方向通信についても、接続テストを実施し、家庭学習用として一人一台学習者用端末を使用する機会を増やすことができた。今後は、常時持ち帰れるようにし、積極的に活用する。
- スマートスクールの「心の天気」の入力は、全体の7割弱にとどまっている。次年度は、習慣化を確実に定着させ、児童の気持ちに寄り添えるようにする。
- 学校閉庁日の設定や定時退勤日の設定は、定着してきた。職員会議の日は、全学年5時間授業とし、開始時刻を繰り上げるなど、働き方改革を推進できた。
- 図書委員会と学校図書館司書を中心にして、読書週間等の取り組みを充実することで、児童の貸し出し冊数を増やすことができた。今年度は、図書館ボランティアの協力で図書館開放の回数を増やすことができた。今後は、大阪市立図書館のWebライブラリーを活用するなど、もっと気軽に本に親しめるようにしていく。
- 学校ホームページやミマモルメによる情報発信を活発に行い、ペーパーレス化を本格化することができた。

次年度は、大阪市教育振興基本計画の最終年度に当たる。そのため、さらなる教職員の働き方改革を推進するとともに、目標達成をめざして、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注ぎながら運営に関する計画を策定し、実現できるよう取り組んでいきたい。

(様式2)

大阪市立東小路小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、87%以上にする。 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 令和6年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。 令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、96%以上にする。 令和6年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的に回答する割合を85%以上にする。 令和6年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的に回答する割合を97%以上にする。 令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を82%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることやS K I P機能を活用して、最新の児童情報を共有する。 児童が安心できる居場所を学校につくるため、全ての教職員で見守る体制をつくる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 隔週で実施する職員ミーティングや校務支援PCの連絡掲示板などを活用して情報共有をし、全教職員で課題に対応する。 児童が「心の天気」(特に下校前)に毎日入力したり、学級担任だけではなく、関りのある教員全てが「いいとこみつけ」の機能を活用したりすることで、児童の心情の変化を早期に発見したり、児童の長所を多面的に捉えたりできるようにする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育の年間計画を立て、計画的に実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練(火災、地震・津波、台風、不審者対応)を年間4回実施する。 区役所や消防署はもとより、地域防災リーダーや地域のボランティア団体とも連携し、防災学習の内容を充実させる。また、災害時児童引き渡し訓練を実施する。 	A

取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】

- ・すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にする」「自分でしっかり考えて行動する」ことを意識し、子どもの自尊感情を高める。

指標

- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を97%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートにおいて、「自分でしっかり考えて行動する」の子どもの肯定的な回答の割合を92%以上にする。
- ・令和6年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を97%以上にする。

B**取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】**

- ・学年に応じた「体験活動」を通じてキャリア教育を充実させ、将来の夢や目標を持てるようにする。

指標

- ・3年「あべのハルカス」4年「ごみ焼却場」「科学館」5年「新聞社」「ハグミュージアム」6年「文楽」「ピースおおさか」「キッザニア」などでの体験や見学を通して、それぞれの学習内容の理解を深める。
- ・2年「まちたんけん」3年「スーパーマーケット見学」4年「水道教室」5年「電気自動車」6年「租税教室」や「トップアスリート夢授業」など、様々な職業について知る機会をつくり、将来について夢をもてるようになる。
- ・全学年で生野区の施策の「生きるチカラまなびサポート事業」を活用して、児童が自分の将来を前向きに考える環境づくりを促進する。
- ・令和6年度の小学校学力経年調査・校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を82%以上にする。
- ・芸術鑑賞を通して、本物のすばらしさを体感する。

B**取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】**

- ・国際クラブの活動を含めて、外国人教育を各学年で取り組み、隣国の歴史や文化について知り、人権を尊重する教育を推進し深めていく。
- ・総合的な学習の時間と他教科との関連を図り、多文化共生教育を推進する。

B**指標**

- ・年間5時間以上の学習の機会を持ち外国の歴史や文化を知り、人権の大切さを理解する。

取組内容⑥【基本的な方向2、豊かな心の育成】

- ・学校園間で情報交換や園児・児童・生徒との交流を活発に行うなど、幼小連携や小中連携を推進し、児童がスムーズにステップアップできるようにする。
- ・開かれた学校をめざして地域と児童が交流する場を設定する。

B**指標**

- ・1年は幼稚園との交流会を開いたり、6年は中学校のオープンスクールに参加したりして、異校種間での交流を図る。
- ・4・5年は、グラウンドゴルフを通じて、地域の高齢の方との交流を図る。
- ・2・3年は、町たんけん、校区たんけんで地域のお店の人たちとの交流を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 審議事項は職員会議、それ以外の伝達事項は、隔週の職員ミーティングやSKIPの連絡掲示板を活用することを定着させ、会議の精選をすすめることができた。また、申し送りや記録の必要な事項、児童の言動や生活背景から配慮を要する事項についてもICT機能を活用することで、全教職員で共通理解を図ることに役立つことができた。

児童らの心情や生活の中での様子を知るために「心の天気」を毎日個人端末から入力

し、状況の把握と変化があった場合には、早期対応に努めることができた。さらに、校務支援 PC 連絡掲示機能の活用は進んでいる。児童の欠席等の情報共有についても、SKIP へと一元化することで推進することができた。

- ② 防災学習は昨年に引き続き、区役所や消防署との連携はもとより、地域防災リーダー や地域のボランティア団体とも連携を取り、有意義なものとすることができた。児童引き渡し訓練も、保護者の協力のもとスムーズに行えた。命を守る訓練なので、状況による条件反射的行動が起こせるようになってきていることは大変重要な成果といえる。
- ③ 自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりする機会を学習活動や学級活動に意図的に取り入れるようにした。特に 5・6 年生は、委員会発表や「今月のめあて」をみんなの前で発表することにより自信を持って表現できるようになった。また、活動を認められることで自己肯定感を高めることができた。その結果、校内アンケートでは肯定的な意見がどちらとも約 98% という高い数値になった。
- ④ 全学年で多様なジャンルの体験的なキャリア教育に取り組むことができた。また、事前・事後の学習に取り組むことで体験したり、聞いたりしたことを深化させていくこともできた。そして、なによりその道に精通した人との交流は、児童にとって大切な出会いであり、多種多様な将来の夢をもつ機会となった。
- ⑤ 国際クラブの活動は、所属人数の大幅な増加もあり、実りの大きいものとなった。特に、校内外での発表会や交流会への参加は、児童にとって有意義な経験となった。また、学年でソンセンニムによる課内実践を実施し、それに関連して外国人教育を推進することにより、国際クラブに所属していない児童が外国にルーツがあると自ら伝えるなど、自分のルーツに誇りをもちオープンにできる素地ができている。
- ⑥ たてわり班活動のドリームランドに幼稚園児を招待することで、児童は自分の役割をきちんと果たそうと頑張ったり、園児に親切にしたり分かりやすく説明したりするなど、よい面がたくさん見られた。他にも地域との連携や幼・保との連携、中学校との連携した取り組みを通してそれぞれの学年で情報交換や交流ができた。また、地域をたんけんしたり、商店街の見学をしたりして、自分のくらしに直結した「ひと・もの」について知ることができ、地域への愛着を改めて感じ、感謝の気持ちをもつことができた。

次年度への改善点

- ① 連絡掲示板の情報を確認されていないことがあり、周知できていない事案があつた。全教職員が確認する習慣をつけ、情報共有しなければいけない。児童の出欠等の情報共有については、SKIP にできるだけ速やかに入力する習慣をつけなければならない。さらに、「いいとこみつけ」「心の天気」については教職員がまず、その機能を「価値のあるもの」として認識しなければならない。それがなければ、なかなか活用は進まないと感じる。そのうえで児童にフィードバックできるようにする。
- ② 避難訓練が、「訓練のための訓練」になっていないか、より細部まで突き詰めて立案していく。例えば、防犯ブザーの正しい使い方や簡易トイレの使い方などいろいろな具体物を活用して、事件や災害の時に自分たちにもできることについて考える場を作ることや事前周知のある訓練だけではなく、周知なしで実施することも今後取り組む必要がある。
- ③ 重点的に取り組むべき項目のため、今後も児童のよい行いやがんばりを紹介したりする場を大切にしていく。

- ④ 出前授業のテーマを明確にするためにも、総合学習の柱立てをし、そのカテゴリーに沿った内容の体験型学習を取り入れていくようにする。併せて、内容を精選し、削減していくことも必要である。
- ⑤ 新渡日などが増加する中、在日コリアンの様相も変化が大きい。そのうえ、教職員の世代交代も激しくなっている。こうした現状を踏まえて、生野区と在日コリアンの人々とのつながりの歴史や文化についての研修会を改めて持つことが必要ではないかと考える。さらに、韓国朝鮮に限らず、多様な国籍の児童が増える中、多文化共生の教育をさらに推進していく。
- ⑥ 異校種間での情報交換の場や、交流のもち方や時期について検討していく。また、交流のテーマに多様性を取り入れることも必要である。例えば、生野区には支援学校が設置されており、地域から支援学校へ通学している人たちもいる。ICT を活用しての遠隔交流でもよいので、互いの学びの様子を交流していく機会をもつことも大切である。

(様式 2)

大阪市立東小路小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、40%以上にする。 令和 6 年度の小学校学力経年調査の算数科における平均正答率 7 割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 令和 6 年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 令和 6 年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的に回答する割合を 85%以上にする。 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。※全国平均を 1 とした時の割合 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 65%以上にする。 令和 6 年度末の児童アンケートで、「早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を 82%以上にする。 令和 6 年度末の児童アンケートで、「給食に関心をもって過ごせたか」の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題の達成に向けて、算数科において指導法の工夫や研究を教員全体で進める。引き続き子どもたちが「できた」「わかった」と実感でき、主体的・対話的で深い学びにつながるよう研究を推進していく。 算数科をはじめ、授業や様々な教育活動で、一人ひとりが自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する時間を設定する。(△アヤやグループ学習など) <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業研究会を伴う研修会を年間 6 回以上実施する。 朝の学習で毎週火・金に計算タイムを設定し、基礎・基本のさらなる定着をめざす。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における算数科の標準化得点を、いずれの学年も前年度より向上させる。 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、40%以上にする。 	B

取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・授業や様々な教育活動で、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」ことを意識して学習意欲を高める。

指標

- ・委員会活動のめあてを毎月第2月曜日の全校朝会で代表が発表する。
- ・3年生以上の学年で総合的読解力育成カリキュラムを1教材以上取り組む。
- ・年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- ・年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的な回答の割合を85%以上にする。

B

取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

- ・体育の授業や体育的行事等で、児童の体力の向上を図り、特に柔軟性を高める。

B

指標

- ・令和6年度の校内の運動能力調査のうち、長座体前屈について春季と冬季に二度実施し、3年～6年において冬季の記録を春季より2ポイント以上向上させる。

取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】

- ・基本的な生活習慣を身につけるよう指導し、家庭にも啓発を行う。

A

指標

- ・令和6年度末の児童アンケートで、「早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を82%以上にする。
- ・令和6年度末の児童アンケートで、「給食に興味をもっていますか」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 授業研究会やメンター研修など計画的に実施し授業力の向上に努めることができた。授業の中において意見の交換の場を積極的に設定していくことで、児童が学級への帰属意識を高めたり、学習への参加意識を向上させたりすることにつながった。
- ② 今年度の新たに取り組んだ「委員会発表」はとても充実していた。こういった機会を児童に提供することはとても重要であり、委員会での事前の話し合いが徐々にスムーズに、また、主体的なものになっていく姿が見られるようになった。
- ③ 柔軟性を高めていくことは、多種の運動に親しんだりケガを防いだりすることに役立つ。体育科の準備運動を中心に柔軟性を高めるストレッチなどに取り組んだ結果、長座体前屈のポイントは学校全体では向上させることができた。
- ④ 養護教諭による保健指導や学級指導（「歯ッピ一貯金通帳」にも早起きのチェック欄を設けている）の結果、朝決まった時間に起きることの大切さを児童に意識づけることができた。給食を当番が取りに行く際、給食室入口で献立の内容についてスライドで紹介したり、教室で食育カレンダーを確認したりすることにより、児童が給食や栄養について興味をもつことができた。また、栄養教諭による給食室での声かけや、各学級で行った食育・栄養指導も効果的で目標を達成する要因となった。

次年度への改善点

- ① 「できた・わかった」という観点へのアプローチに比べ、「主体的・対話的で深い学び」へ、どこまで迫れたかについては課題が残る。そのため、総合的読解力についての研修の機会がほしい。来年度の研究を「総合的読解力」にして取り組んでもいいのではないか。また、総合的な学習の時間や様々な教科のどの場面で取り組んでいくのか位置づけを明確にしていく。
- ② 学校教育アンケートでは、「自分の思いや考えをすすんで表現する」と回答した児童の割合が多かったが、高学年では決まった児童だけが発表する傾向にある。ペアやグループなど少人数での話し合いや発表を通して、どの児童も少しずつ自分の言葉で考えが出来るような手立てを今後も続けていく。
- ③ 柔軟性を高める取り組みを、どうやって日々の活動の中に落とし込んでいくのかを検討していかなければならない。習慣にするための手立てを検討する。
- ④ 児童の生活習慣の改善やよりよい食生活のためには、保護者の理解と実践が不可欠である。今後も各種たよりやホームページで啓発を続ける。場合によっては個別に保護者と話し合って改善を理解してもらえるようにする。

(様式 2)

大阪市立東小路小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。 (R5 84.8%) 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1（月間 45 時間未満）を満たす教職員の割合を 65%以上にする。 (R5 62.5%) 令和 6 年度末の校内調査において、児童 1 人当たりの学校図書館年間貸出冊数を30冊以上にする。 (R5 21.9冊) 令和 6 年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。 (R5 76.8%) 令和 6 年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を94%以上にする。 (R5 94%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じて学習場面で、必要に応じてデジタル教材を活用し、教育効果を高める。特に、高学年においては、プレゼンテーション力を高められるようにする。 各学年の児童の実態に応じて、プログラミングを学習し、系統立てた取り組みを進める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を活用した学習（デジタルツール navima や学習動画コンテンツによる家庭学習など）を日々実施し、令和 6 年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。 スクラッチやビジュアルなどのプログラミングアプリを活用し、系統立ててプログラミングのスキルを伸ばす。 	C
<p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 教員の長時間勤務の解消をめざし、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> メンターを中心として教員の授業力を向上させる取り組みを定期的に行う。 ゆとりの日を週 1 回以上設定し、定時に退勤できるようにする。 時差勤務制度を活用し、教職員のワークライフバランスを推進する。 教員の勤務時間の上限に関する基準 1（月間 45 時間未満）を満たす教職員の割合を 65%以上にする。 	B

取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】

- ・学校図書館開放を定期的に実施し、児童が自主的に本に親しむことができるようとする。

指標

- ・図書委員会の活動を充実させ、全校児童が本を親しむ機会を積極的に設ける。
- ・令和 6 年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、78%以上にする。
- ・令和 6 年度末の校内調査において、児童 1 人当たりの学校図書館年間貸出冊数を30冊以上にする。

B

取組内容④【基本的な方向 9、家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】

- ・学校運営や日々の教育活動について保護者や地域に対して、保護者メールを活用し、学校ホームページを毎日更新するなど積極的な情報発信により、開かれた学校づくりに取り組む。

指標

- ・年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を 94%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学習者用端末を、様々な学習活動に生かすことができた。特に、児童の学習理解、進度に合わせて学習できる navima やスタディサプリは、楽しみながら取り組むことができている。特にスタディサプリは、個別の到達度に合わせた課題の出し方や振り返りに役立てることができた。プレゼンテーションは、総合的な学習の時間や国語科のまとめとして活用し、児童は見る人に分かりやすい表現や効果を考え工夫できるようになった。
- ② 校内での研修や総合教育センターや大学、その他の研修会に積極的に参加することができた。研修で得たことについて自らの実践に役立てたり、校内でシェアしたりと有意義に生かすことができた。職員会議のある日は全学年 5 時間授業とし、保護者・地域に理解を求め実施したことは、働き方改革の観点から有効な取り組みとなった。
- ③ 学校図書館司書や図書館ボランティアの協力により図書館開放の日を増やしたり、図書委員が呼びかけたりして、休み時間や放課後に図書館に行く機会が増えた。これらにより、教室でもすきま時間を活用して読書をする児童が増えた。また、貸出冊数を 2 冊までにしたことで、今後年間 30 冊以上の目標は達成できると考えられる。貸出冊数が多かった児童を朝会で表彰する取り組みも、さらに児童の読書に対する意欲を高めることができた。
- ④ 情報発信は、各種たより・学校ホームページ等で日々行うことができている。ホームページについては、たくさんの写真あるいは動画での発信もあり、充実していた。

次年度への改善点

- ① プログラミングに関しては、児童への出前授業だけではなく、教員に向けて実践的な研修が必要である。
- ② 「ゆとりの日」の設定は行えたが、勤務終了時刻が伸び延びとなり、形骸化している面も見られる。教職員が生き生きと働くことは、非常に大切であり、他校の取り組みを

参考にしながら、働き方改革に有効な手立てを探っていく。

- ③ 読書が身近になるし、調べ学習もしやすいため、e-library の導入を再検討してほしい。授業の隙間時間に本を読むことができるよう学級文庫の充実をしていく。
- ④ 「開かれた学校」づくりという観点は、今日的に非常に重要である。情報発信だけでなく保護者・地域も気軽に参画できる機会をより増やすなど、様々な手法でアプローチしなければならない。